

令和7年（2025年）9月18日（木）15時00分配付

項 目	オホーツク総合振興局高病原性鳥インフルエンザ防疫演習について	
配付資料	実施要領	
内容及び報道に当たってのお願い	○ 近年、高病原性鳥インフルエンザの世界的な流行が続いており、近隣地域では韓国、台湾をはじめ、欧州や北米では夏季の感染事例が報告され、さらに、これまで未発生地域であった南米でも感染が拡大しています。 オホーツク総合振興局では、渡り鳥が飛来する時期を迎え、今シーズンも厳重な警戒が必要となっている高病原性鳥インフルエンザについて、関係機関と連携して迅速かつ的確な初動対応を行うため、次のとおり防疫演習を実施します。 記 1 日 時 令和7年（2025年）9月26日（金）10:30～15:00 2 場所 網走市総合体育館（網走市駒場南1丁目8-1） 3 参集範囲 市町村、農業協同組合、農業関係団体、家きん飼養者、北海道家畜畜産物衛生指導協会、北海道オホーツク総合振興局等 4 共催 北海道家畜畜産物衛生指導協会、オホーツク家畜自衛防疫推進協議会、網走市 5 内容 (1) 講義（10:30～12:00） ・ 鳥インフルエンザウイルスを疑う届出から防疫対応完了までの流れ (2) 実地演習（13:00～15:00） ・ 防疫衣の着脱訓練 ・ 農場内での作業模擬演習 6 参加人員 50名程度	
担当窓口	北海道オホーツク総合振興局産業振興部 農務課長 塚田 康貴 直通電話 0152-41-0660 内 線 2700	

令和7年度 オホーツク総合振興局 高病原性鳥インフルエンザ防疫演習実施要領

1 目的

高病原性鳥インフルエンザ(以下、「HPAI」という)は、昨シーズン、道内2箇所(厚真町、旭川市)の家きん飼養農場で発生し、国内では51事例(約932万羽)が殺処分されたところ。一方、野鳥における陽性事例が相次ぎ、全国227事例のうち、道内では過去最多の126事例が確認された。

2025年5月にブラジルの商業用家きん農場で初めての感染が確認され、世界的にもHPAIの発生が広まっているほか、国内初となる海棲哺乳類(ゼニガタアザラシ及びラッコ)の感染発生が確認されるなど、より一層警戒が必要となっている現状であり、渡り鳥が南下する秋以降、侵入リスクは非常に高い状況になると考えられる。

万が一発生した場合に、関係機関が一体となった迅速かつ的確な対応に備えるため、発生時の農場内での作業など一連の防疫対応を再確認し、関係機関が連携した防疫体制の強化を図る。

2 開催日時及び場所

- (1) 日 時 令和7年(2025年)9月26日(金) 10:30~15:00
- (2) 場 所 網走市総合体育館
(北海道網走市駒場南1丁目8番1号)

3 主催

北海道オホーツク総合振興局

4 共催

公益社団法人 北海道家畜畜産物衛生指導協会
オホーツク家畜自衛防疫推進協議会
網走市

5 内容

- (1) 開会
- (2) 開会挨拶
- (3) 講義〔1時間半〕
HPAIを疑う届出から防疫対応完了までの流れや昨シーズンの道内での発生及び対応状況等
- (4) 実地演習〔2時間〕
 - ① 防疫衣の着脱訓練
 - ② 農場内での殺処分模擬演習
- (5) 講評
- (6) 閉会挨拶

6 参集

生産者、市町村、農業協同組合、農業関係団体、北海道警察北見方面本部、陸上自衛隊北部方面隊第5旅団、オホーツク獣医師会、オホーツク家畜自衛防疫推進協議会、公益社団法人 北海道家畜畜産物衛生指導協会、北海道オホーツク総合振興局